

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市水とみどりの審議会				
事務局 (担当課)		水みどり環境課 電話042 - 769 - 8242 (直通)				
開催日時		令和元年 8月 1日(木) 14時00分～16時30分				
開催場所		相模原市民会館2階 第2中会議室				
出席者	委員	9人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	5人(環境共生部長、水みどり環境課長、他3人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 会長、副会長の選出について (2) 次期「相模原市水とみどりの基本計画・生物多様性さがみはら戦略」の素案(第3章～第5章)について 3 その他				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会

2 議題

(1) 会長、副会長の選出について

委員の互選により、会長に田淵委員を、副会長に高橋委員をそれぞれ選出した。

(2) 次期「相模原市水とみどりの基本計画・生物多様性さがみはら戦略」の素案(第3章～第5章)について

事務局による説明の後、質疑応答を行った。

序章1頁の3段落目において、「相模原市水とみどりの基本計画」が平成26年度に改訂されたことは記載されているが、生物多様性地域戦略が組み込まれたことが記載されていないので記載した方が良い。

ご指摘のとおり生物多様性地域戦略を盛り込んだ旨を記載する。

序章2頁のSDGsは、人間の視点でみんなが幸せになるようなものだと思うが、水とみどりの基本計画は自然や公園など、緑に特化した計画であって、SDGsが出てくるのはなぜか。あまりこれに引きずられない方が良いのではないか。さらっと書いてあればよいのだが。

SDGsは国連で採択されたもので、「世界中誰一人取り残さない」として設定された17のゴールがあり、水やみどり、生物多様性の概念も含んでいる。

現在、改訂作業を進めている市の総合計画をはじめとした様々な計画では、SDGsのゴールと照らし合わせながら計画の目標設定をしていくことを一つのルールとして作業を進めており、計画の前段で上位計画との関連や、計画策定の考え方としてSDGsがあるということを追記する。

序章9頁の3つの生物多様性の表の3番目の遺伝子の多様性の文章が引っかかる。「同じ生きものの種類」ではなくて「同じ種類の生きもの」で「遺伝子による違い」も表現に無理があり、「遺伝情報の差異や変異」ということだと思うが、専門的に言うことも避けるべきだと思う。環境審議会でも同様なものが出てきているので表現は統一した方が良い。

記載する文言の出典元があれば記載した方がよい。

現行計画の8頁では引用を記載しているので、このような表記を追加する。解釈がまだ確定していない部分については、現行計画からの引用とする。

法令との関連を示した方が良い。6頁に根拠の関係図が示してあるが、3頁に

も都市緑地法の関連法令として都市公園法や生産緑地法などが示されている。

関係する法律を記載するのであれば、できるだけ書いた方が良いのではないか。市の緑化条例との関連や、工場立地法にもみどりの定義が含まれており、計画対象として全域が対象となっている。施策で民間を指導するとしているが、この計画で指導するのか条例で指導するのかわからない。

条例は、法律と同様に人の行為を制限できるものであるが、計画にはそこまでの拘束力はない。

本計画は、条例よりも幅広く緑化施策や生物多様性に関する施策を推進しているように見えるもので、将来的な目標も多く含まれており、ご指摘の内容を踏まえ、根拠の体系図について分かりやすい表現に変更する。

条例があって、助成があって、普及啓発があるといったように、段階があってその全体がこの計画書であるといったポンチ絵を入れてもいいのでは。

本計画は、基本計画であるため、大きな枠組みとしても捉える必要がある。ただし、ご指摘のとおり根拠の体系図は修正したい。

資料中の「緑被率」はどこからの数値か。

用途地域が定められている地域での緑被率である。

施策の体系図には、重点的取組が含まれていない。どちらも良いものであるが、施策の体系図に重点的取組を入れることは可能か。

重点的取組は、体系図にある推進施策を異なる視点で組み合わせたものであるため、体系図に取り込むことは難しい。意見を踏まえてより良い表現を検討する。

基本目標の成果指標については、仮の数値であるということだが、本来は指標があって、それに向けた施策の検討があるように思う。本計画が大きなものであるため、理想通りにはいかないと思うが。

生物多様性の認知度は、現計画の改訂時にも31%程度だったため、そこから伸びていない印象を受けている。

成果指標は、社会的な動向や傾向を見て設定し、改めてご提示する。

成果指標の設定には、現況値から目標値の間で元号が変わっているため、西暦を使用するか、併記してほしい。

西暦との併記で混乱が生じないようにする。

計画書の内容に対する具体的な取組は、これから出るのか。

個別具体的な取組については、計画書には載せず、進行管理上で把握することを想定している。

前回の計画では事業主体を含めて具体的に記載してあるが今回は記載しないのか。

現計画は、具体的に記載してあるがために、その内容に縛られてしまっているため、基本計画として方向性や方針を計画書に示し、具体的な取組については、

毎年度の取組結果を確認する際に、把握することを想定している。

数値目標は基本目標に対して1つ付けるのか。

計画に載せる数値目標は基本目標に対して1つを想定している。

個別の事業については、事業ごとに最終目標を立て、その達成度を評価する仕組みを考えている。各事業の評価から数値目標を評価することは難しいため、各事業の評価結果を踏まえた全体評価に結びつくように考えたい。

基本目標4について、イベント等の参加人数ではなく、自然や森に関わる人の割合を把握するとかの目標設定はできないものか。

まち・みどり公社は、都市緑化だけでなく、森づくりに関する取組も実施している団体である。

基本目標4は、まち・みどり公社の事業への参加者数を見ることによって、活動に参加する人が増えているかということ測るための指標として考えている。

今回の計画案は、現計画より大きな枠で捉えている。

これまでにいただいたご意見の部分は、毎年の実行計画のようなものを作っていく中で、一つ一つの施策を書き込んでいく形になる。

細かい施策を記載しておらず、基本計画では読み取れないところもあるが、全体の取組としては繋がっており、細かい部分を補う方法の示し方等を検討させていただきたい。

次回の審議会を10月上旬くらいに予定しており、次回でまとめの意見となるので、今日の資料を見て頂いて、事前に意見を頂ければ修正した資料を次回、事前に提示する。

3 その他

事務局から、次回の会議日程等について説明した。

以上

水とみどりの審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	田淵 俊人	玉川大学農学部 教授	会長	出席
2	南 正人	麻布大学獣医学部 准教授		出席
3	吉永 龍起	北里大学海洋生命科学部 准教授		出席
4	岸 好美	公募委員		出席
5	秋永 真里子	特定非営利活動法人境川の斜面緑地を守る会 理事		出席
6	飯塚 裕美	特定非営利活動法人みどりのお医者さん		出席
7	熊谷 達男	「小松・城北」里山をまもる会 副会長		出席
8	高橋 孝子	特定非営利活動法人相模原こもれび 理事長	副会長	出席
9	野口 恭夫	相模原商工会議所 3号議員 (東京ガス株式会社神奈川西支店 支店長)		出席